



特集

正副議長にインタビュー



改選後の昨年5月臨時会で選出された、藤縄喜和議長（鳥取市選挙区、5期）と、福田俊史副議長（八頭郡選挙区、3期）。就任から1年半を経過したお二人に、コロナ禍の今、県議会の代表としての思いなど、お話を伺いました。

藤縄喜和議長

― 議長になられて1年半。はじめて議長席に座られたときはいかがでしたか。

言論の府としての議会を担う重責をひしひしと感じたことは、今も鮮明に覚えています。

― 振り返って印象に残っていることは。

やはり新型コロナウイルス対策です。県議会新型コロナウイルス感染症対策代表者会議を設置するなど、議会内でも対応に追われました。今年の8月臨時会で知事提案のクラスター対策条例を修正議決したことも大きな出来事でした。

また昨年は平成から令和への御代替わりに際し、県議会議長として即位の礼に参列させていただきました。鳥肌が立つような経験で本当に感謝です。

― 新元号に変わったお祝いムードが一転、翌年に新型コロナウイルスが起きるといふ今の状況は誰も想像しませんでした。コロナ禍の今、議長としてどのようなことに取り組みたいですか。

第一に、議会から感染者を出さないよう乗り切りたい。それから、議会改革の取組の一つとして、議員が政策条例をより積極的に提案できるよう、議会内に政策条例等検討委員会を新たに設けました。議員が提案した条例は、平成25年11月定例会（歯と口腔の健康づくり推進条例）のとき以降、しばらく途絶えていますので、これからは県民の声を反映した議員提案による条例制定がもっと増えることを願っています。

― 政治を志している若者へエールをお願いします。

政治の舞台は、必ずしも議員になることだけではありません。いろんなステージがありますから、そこに一歩踏み出して、小さいことからでもいいので、一人一人が主役のつもりで政治に関わってほしいと思います。若い皆さんに期待しています。



福田俊史副議長

― 副議長になられて、身の回りで変わったことはありますか。

県内あちこちに行かせていただいたり、テレビなどに声をかけていただく機会が増えましたね。

― 確かにメディアでよくお見かけしますし、同い年の議員として、私も副議長の存在は心強いです。ところで、休日とはどのように過ごしておられますか。

土日は地元の行事に出向いて、県民の皆様とお会いするようにしています。休日家でゆっくりするほうが落ち着かなくて（笑）。できる限り現場に行き、現場の声を聞くことをしっかりやっていきたいと思っています。

― アフターコロナに向けて、副議長として取り組みたいことは。

コロナ禍をチャンスに変えたい。地元の若桜鉄道や大江ノ郷をはじめ、県全体の観光資源を輝かせて、インバウン

ドが戻ってくるまでの間、身近なところでのマイクロツーリズムを推進していきたいと思っています。

県内のことで意外と知らないことも多いので、修学旅行等も含め鳥取県のいいところをもっと巡って、経済活動につなげていけるよう是非応援していきたいですね。

― 最後に、政治を志す県内の若者にメッセージをお願いします。

今、ふるさとを元気にしたいと公務員を目指す方も多いと思いますが、そういった方々にこそ、政治家を目指してほしい。ハードルが高いイメージがあるかもしれませんが、私たち若手の議員が活躍することで、若い人たちが県議会を志すきっかけになればと思います。

― そうですね。誰もが身近に感じてチャレンジできるよう、もっと地域の若い世代の方々と意見交換するようなことにも取り組んでいきたいですね。本日はありがとうございました。



〈聞き手〉県議会広報委員会
西村弥子委員

政策条例等検討委員会を新設

6月定例会で設置に関する会議規則の改正を行い、10月7日、委員長に内田博長議員を、副委員長に興治英夫議員を選出し、運営要綱を決定しました。

この委員会は全議員で構成し、検討すべき政策課題ごとに小委員会を設置して政策条例案等を作成します。その後、全体会で協議・調整を重ね、最終的に議員提出議案として本会議への提案を目指します。

発行日／令和2年12月1日

編集・発行／鳥取県議会 〒680-8570 鳥取市東町1丁目220

☎0857-26-7460 FAX0857-26-7461 e-mail : gikaisoumu@pref.tottori.lg.jp